

放課後子ども教室と 地域コミュニティづくり



久喜市社会教育委員
久喜市放課後子ども教室運営委員会副会長
金子雄司

本日の内容

○ちょっとその前に

○みんなワクワク みんな生き生き

久喜市放課後子ども教室「ゆうゆうプラザ」

1 目的、あゆみ、組織

2 運営委員会、実施委員会、サポーター、参加児童

3 経費、傷害保険

4 活動の様子

5 成果、課題

○おわりに

ちょっとその前に

久喜市の社会教育委員の活動

「アクティブ 社会教育 i n g 」
目指して

I 社会教育委員構成

- 1 委員数 20名 (男13名 女7名)
- 2 選出区分 社会教育6名 学校教育2名
家庭教育2名 学識経験者10名
- 3 任期 2年 (再任を妨げない)
継続12名 新規8名

II 会議・研修

- 1 定例会議 年3回 (6月・9月・3月)
- 2 定例研修 年2回 (埼玉県・東部地区)

3 自主研修 年3回

① 社会教育3団体合同研修会（4月）

久喜市の社会教育委員と生涯学習推進会議委員、生涯学習推進部委員、教育委員会生涯学習等担当職員の代表による小グループの意見交換会

平成29年度テーマ

「地域コミュニティと生涯学習活動」



② **社会教育4団体合同研修会（10月）**

①の**社会教育3団体委員と久喜市の公民館運営委員（8館80名）による小グループの意見交換会**

平成29年度テーマ

「久喜市の生涯学習の活性化、

市大・高大生の募集拡大について」



③ 久喜市市民大学講座への参加（12月）

最新の社会教育活動・生涯学習活動について、市民大学の講座がある。市民大学生(卒業生を含む)と①の社会教育3団体委員との合同研修で、3団体の後継者育成と発掘も兼ねている。

平成28年度

「学習なくして活躍なし
－学びあい・喜びあいの地域づくり
を進めるコツー」

講師

宇都宮大学 地域連携教育研究センター
准教授 佐々木 英和 様

平成29年度

「10年先の生涯学習を見すえた
『まちづくり』」

講師

文教大学 人間科学部
講師 栗原 保 様

4 自主活動

①久喜市等の主催行事への参加

- ア、まなびすと久喜（久喜市生涯学習推進大会）
- イ、まなびすとフォーラム（久喜市生涯学習研修大会）
- ウ、公民館まつり、市民文化祭、市民芸術祭、地区体育祭、など

②関係団体等の構成員として

③放課後子ども教室のスタッフとして 社会教育委員 9名が現在活動中





みんなワクワク

みんな生き生き



久喜市放課後子ども教室

「ゆうゆうプラザ」

I 目的

- 1 放課後や週末等に小学校の施設等を活用して、安全・安心な子どもの活動拠点（居場所）を設け、地域の方々の参画を得て、子ども達に勉強やスポーツ・文化芸術活動、地域住民との交流活動等の機会を提供することにより、子ども達が地域社会の中で、心豊かに健やかに育まれる環境づくりを推進します。
- 2 子どもが巻き込まれる事故・事件の防止、また、子ども達の体験を通しての学びや、異学年・異世代間の交流活動、家庭・地域の教育力の向上等に寄与しています。

Ⅱ 名称 ゆうゆうプラザ



子ども達が、家庭や地域の人達に見守られながら、自然や文化・芸術、スポーツ活動に親しみながら、**友達**と思いきり**遊**んで欲しいとの願いから、「**ゆうゆうプラザ**」の名称がつけられました。

Ⅲ あゆみ

各ゆうゆうプラザの名称は、その学校の校風や伝統、地域性等を生かして、各実施委員会が独自に名付けている。

1 地域子ども教室推進事業

文部科学省 平成16年度から3カ年計画

開設年度	ゆうゆうプラザ名
平成17年度	くきっ子 (久喜小)
18年度	さくらっ子 (久喜東小)

2 放課後子供教室推進事業 文部科学省

平成19年度	清久っ子 (清久小)
--------	------------

2 放課後子供教室推進事業

文部科学省

平成20年度

なでし子 (江面第一小)

本町っ子 (本町小)

あおばっ子 (青葉小)

文部科学省

DVD「地域とつくる子ども居場所」製作に協力

21年度

太田っ子 (太田小)

光の子 (江面第二小)

あおげっ子 (青毛小)

ほくとっ子 (久喜北小)

「埼玉教育ふれあい賞」受賞

2 放課後子供教室推進事業

文部科学省

平成22年度 桜田 (桜田小)
久喜市・菖蒲町・栗橋町・鷺宮町の
1市3町が合併



久喜市
K U K I

23年度 三箇 (三箇小)
かやまっ子 (栢間小)
おばやし (小林小)
けやきっ子 (東鷺宮小)
栗くり (栗橋小)

「文部科学大臣賞」受賞

2 放課後子供教室推進事業

文部科学省

平成24年度

わしの子

(鷺宮小)

25年度

しょうぶっ子
みなみっ子

(菖蒲小)

(栗橋南小)

26年度

すなはら
かがやきっ子
東っ子

(砂原小)

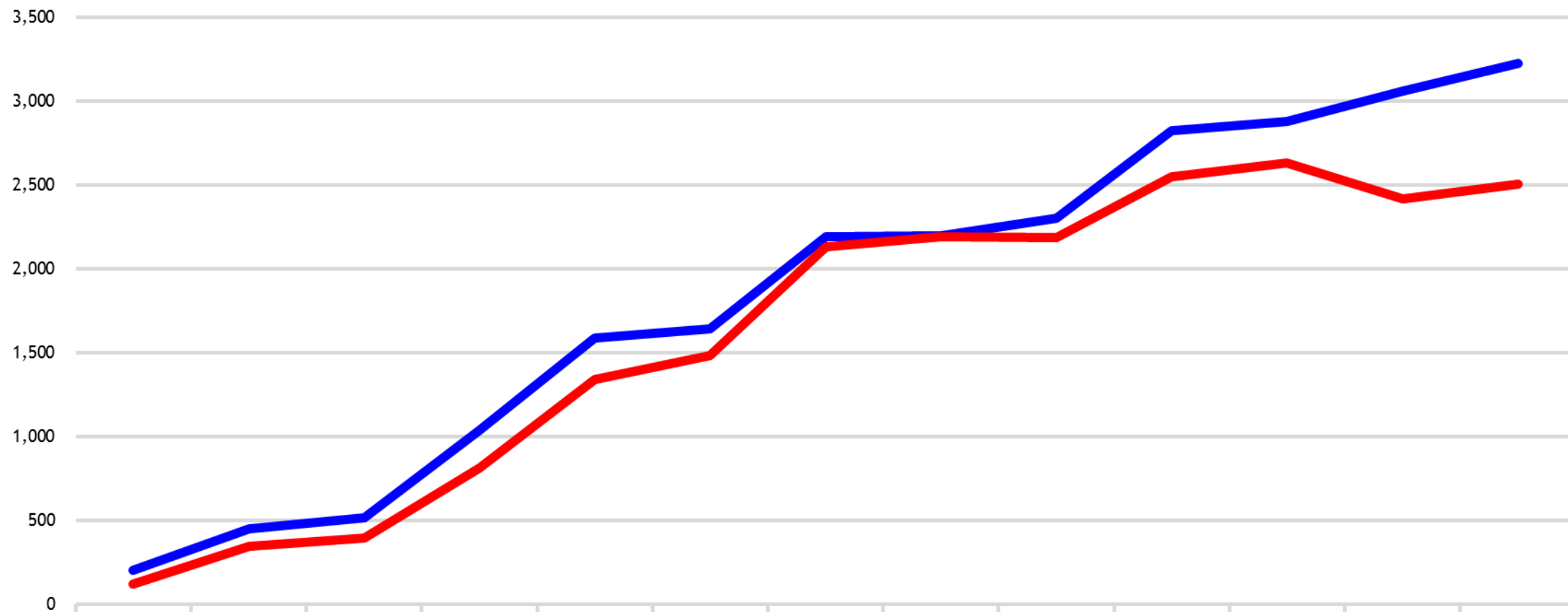
(上内小)

(菖蒲東小)

27年度

しずかっ子元気 (栗橋西小)

市内ゆうゆうプラザ参加児童数及び実施委員・サポーター数の推移



登録児童数
サポーター数(実施委員を含む)

	17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年
登録児童数	202	450	515	1,038	1,587	1,641	2,194	2,199	2,300	2,824	2,879	3,060	3,228
サポーター数(実施委員を含む)	120	343	396	813	1,339	1,480	2,130	2,189	2,186	2,551	2,631	2,417	2,507

IV 組織

組織運営図

久喜市放課後子ども教室
運営委員会

会長

副会長

役員会

事務局：教育委員会

運営委員会

各ゆうゆうプラザ
実施委員会

実施委員長

実施委員会

統括コーディネーター

教室コーディネーター
教育活動サポーター
教育活動推進員

教室

指導・活動・下校ボランティア

くきっ子	太田っ子
なでしっ子	光の子
清久っ子	本町っ子
あおばっ子	あおげっ子
さくらっ子	ほくとっ子
しゅうぶっ子	おばやし
三箇子	かやまっ子
東っ子	しずかっ子
みなみっ子	栗くり
わしの子	桜田
かがやきっ子	すなはら
けやきっ子	

1 運営委員会 (資料 1)

- * 市全体の年間事業計画や研修会等の企画・運営をする。
- * 各ゆうゆうプラザの活動について助言や指導、調整にあたる。
- * 事業の普及、並びに活動の評価・検証をする。

① 委員数 39名 (うち社会教育委員は**現職3名、元職1名**)

② 所属先

ア、団体代表 社会教育委員、小中学校長会、スポーツ少年団本部、
スポーツ推進委員協議会、子供会連合会、学童保育運営
協議会、PTA連合会、民生・主任児童委員協議会、
青年会議所

イ、各ゆうゆうプラザ実施委員会代表

ウ、生涯学習推進者

③ 会議・研修会等

ア、役員会・運営委員会

各4・5・10・3月

イ、全員研修会

7月

平成29年度

演題

「放課後子ども教室とコミュニティスクール
とで創る地域の未来」

講師

特定非営利活動法人まちと学校の未来
代表理事 竹原 和泉 様



**ウ、各ゆうゆうプラザ見学会
エ、情報交換会**

**9～11月
12月**

ゆうゆうプラザ見学会



情報交換会



2 実施委員会 (資料1)

各ゆうゆうプラザで活動の企画・運営等にあたる。

① 委員数 **総計 431名**

うち社会教育委員は **7名** (6つのゆうゆうプラザで、7名が活動)
元社会教育委員は **3名** (3つのゆうゆうプラザで活動)

② 構成

地域住民	総計 297名
保護者	総計 125名
学校代表	総計 9名



③会議等

回数等は、各ゆうゆうプラザで違いがある。



ア、実施委員会

イ、サポーター会議

ウ、事故防止の実施委員・サポーター研修会

(例) 救急法研修 (養護教諭等が講師)

避難訓練 (学校のマニュアルに基づく)

エ、学校主催の研修会等に、実施委員やサポーターが参加

(例) 救急法研修 (A E D等)

避難訓練 (学校行事に参加)

④その他

ア、「**スタッフルーム**」が常設されているゆうゆうプラザが、**12校**ある。

(例) 余裕教室、準備室、体育館会議室

3 サポーター (資料1)

各ゆうゆうプラザの講座活動等の実際にあたる。
指導・活動・下校等のサポーターがあり人数は各ゆうゆうプラザで異なる。

①サポーター数 総計 2076名
うち社会教育委員は、11のゆうゆうプラザで、8名が活動中

②構成 地域住民・保護者で構成
各校PTAからも協力

③会議 各実施委員会が、必要に応じて開催



4 参加児童

総計 **3,228名**（市全体**7,298名**）
市全児童の **44.2%**

①学年別での割合

低学年・中学年の児童が多い。

②学童保育児童（放課後児童クラブ）の参加数

総計 **592名**が参加。全体の **18.3%**

5 経費 6,317千円 【平成29年度当初予算】

国・県・市で3分の1ずつ補助

- ①教材・消耗品 2,673千円
各プラザに、「一律5万円+450円×参加児童数」の補助。
児童は、原則無料。
講座内容によっては、材料費の受益者負担がある。
- ②夏季緊急用飲み物 203千円
参加児童数によって、4区分に分けて補助。
- ③謝金 2,647千円
運営委員会・実施委員会の委員、全体研修会の講師
- ④その他 794千円
傷害保険、印刷製本、通信、備品整備、施設借上料

6 傷害保険

① 児童 **800円** (実費 スポーツ傷害保険)
いつでもゆうゆうプラザに参加できる (5～12月頃)

② 運営委員・実施委員・サポーター
経費 (傷害保険) から支出
民間保険と全国市長会市民総合賠償保険を適用

③ 平成28年度の保険対象の事故

子ども	16件
大人	1件



7 活動の様子 (資料2)

①各ゆうゆうプラザの講座開設数

* 最多 **48** 講座 最少 **5** 講座

②講座開設期間

* 5月～翌年2月の間で、ゆうゆうプラザによって期間が違う。

* 期間外は実施委員会やサポーター会議を開催し、年度末から次年度5月にかけて、講座開設準備。

③児童活動期間・・・講座開設期間

* 最長 5月～翌年2月 (10カ月)

* 最短 6月～12月 (7カ月)

* 夏休み 10のゆうゆうプラザで実施 (イベント講座等)

* 冬休み 活動無し

④活動日

ア、単一日型

* 平日のみ

1 ゆうゆうプラザ

* 土曜日のみ

1 ゆうゆうプラザ

イ、複数日型

* 平日 + 土曜日 (日曜日)

2 1 ゆうゆうプラザ

⑤活動時間

ア、平日

15:10~16:15 (夏季)

15:10~16:00 (冬季)

イ、土曜日

9:30~11:30 (通年)

⑥会場

* **学校 (特別教室・余裕教室・体育館・校庭)** が中心

* 公民館や地区コミュニティセンターを複数のゆうゆうプラザで利用

* 講座によっては、野外活動や公民館まつり、まなびすと久喜(生涯学習推進大会)などの発表会に出演

⑥講座内容 (資料3)

「通年型」「前期・後期型」「複数回型」「1回型」の4つのタイプに分かれる。

- ア、**学習系** . . . 学習、そろばん、理科実験、宿題、読書、英語活動
習字、新聞づくり、パソコン、ロボット製作、手話 等
- イ、**文化・芸術系** . . . 編み物、囲碁、将棋、三味線、茶道、昔の遊び、
絵手紙、料理、工作、折り紙、手芸、クラフト、
陶芸、生け花、パステル、大正琴、フラダンス、
日本舞踊、新舞踊、フラワーアレンジメント 等
- ウ、**スポーツ系** . . . ドッジボール、陸上競技、スポーツ吹き矢、空手
バドミントン、外遊び、弓道、剣道、新体操、 等
- エ、**イベント系** . . . 開校式・閉校式、親子クッキング、プールまつり、
クリスマス、各種団体との交流・活動の発表 等
- オ、**その他** . . . ゆうゆう委員会、子ども実施委員会、キッズ編集部

ア、学習系の講座



イ、文化・芸術系の講座



ウ、スポーツ系の講座



エ、イベント系の講座



オ、その他の講座



V 成果と課題

1 成果

①全体

- ア、学校・家庭・地域の連携、協働が深まった。
- イ、子どもを中心とした人づくり・地域づくりが進んだ。
- ウ、小学校を中核とするコミュニティづくりが進んだ。
- エ、異世代・異年齢の交流が、新たな繋がりへと発展した。

②子ども

- ア、多くの人に認められることで居場所があり、人を思いやる気持ちが強くなった。
- イ、体験活動で味わう達成感を通じて、自主性が身に付いてきた。
- ウ、学校では教わらない事への期待やワクワク感が、学ぶことへの興味関心、意欲へと繋がった。
- エ、地域との繋がりが深まり、学校や地域で進んで挨拶が出来るようになった。

③ 学校職員

- ア、参加児童の新しい動きや興味・関心の発見に繋がり、対話が増えた。
- イ、保護者や地域住民との交流が拡大し、授業や学校行事等で学校応援団としての関わり・活用が更に深まった。
- ウ、地域に支えられている学校であることを日々実感し、地域との結びつきがより強くなった。

④ 保護者

- ア、子どもの喜びが家庭で話題になる等、親子の会話が増えた。
- イ、モノづくりなど様々な体験活動で、子どもの成長がたくさん見られてとても嬉しい。
- ウ、多くの実施委員やサポーター、子どもとの交流を通じて、学校外でのコミュニケーションが増えた。

⑤地域住民

- ア、子どもや親と一緒に活動できる楽しさから、ゆうゆうプラザでのボランティアが「生き甲斐」となっている人が増えた。
- イ、知人や交流が増えて日常生活が充実し、張り合いが出てきた。
- ウ、自分の趣味や特技、経験が活かされ、「やり甲斐」が出てきた。
- エ、新しい学びができて、「きょうよう」と「きょういく」が増えた。

⑥社会教育委員

- ア、子どもが地域づくりのキーパーソンであることを共有した。
- イ、「子どもが育つ・地域が育つ」ことが、新しい繋がり・新しい地域コミュニティに発展することを再確認した。
- ウ、学校・家庭・地域の連携や協働への社会教育の関わりについて、積極的に活動するようになった。

2 課題

- ① 実施委員会委員の高齢化と後継者育成
- ② P T Aとの連携
- ③ コミュニティ・スクールとの関わり

久喜市のコミュニティ・スクール(学校運営協議会)

* 市内全小中学校34校で完全実施、312名。

* 各校7～10名の学校運営協議会委員がいる。

うち30校で、ゆうゆうプラザの実施委員等81名が
学校運営協議会の委員となっている。

現社会教育委員でなっている者は、4校で、4名。

おわりに

- 1 **社会教育の目的は人づくり・地域づくり**
- 2 **子どもの姿は、地域社会の姿**

**社会教育でも、子どもとの関わりを深めていき
ましょう**

ご清聴

ありがとうございました

